

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 **オリーブ**)

事業所番号	0670800770		
法人名	医療法人社団 さつき会		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	酒田市曙町2-24-2		
自己評価作成日	平成29年11月30日	開設年月日	平成15年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①入居者の特徴を捉えて、安心して生活できるよう支援している。
- ②同法人の精神科医師と相談し、健康面で素早い対応が出来るよう体制を整えている。
- ③身体・認知機能の維持向上を目指し、体操やレクリエーションを実施している。
- ④地域の幼稚園・小学校との交流や、行事や散歩・ドライブなどを行い、施設にこもらないように心掛けている。
- ⑤防災対策にも力を入れ、自治会や近隣企業の協力を得ている。地震・津波を想定した訓練では、同法人の老人保健施設と連携し実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年目となり幼稚園や地域との交流が積極的に行われ地域の中の事業所として定着してきている。また、職員の異動も少なくベテランが多く利用者との馴染みの関係が築かれ利用者の「笑顔と平安のある生活」に繋がっている。法人による多様な研修の実施や職員が年二回自己評価を行い目標を設定するとともに管理者等が指導することなど職員を育てる取り組みが、サービスの質の向上に活かされている。。日ごろの暮らしの中から、わかること・できることについて把握し、アセスメント、モニタリングを繰り返し行いながら、情報を共有し、出来ることを大切にしながら、一人一人に合った個別ケアの実践に向け努力している。共用空間や利用者の居室が広く利用者と職員がゆったりと一緒に生活できる空間となっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成30年 1月 23日	評価結果決定日	平成30年 2月 2日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、明日葉三原則「明るい挨拶、明るい笑顔、明るい声掛け」を心掛け、その人らしく生活できるよう支援するとともに、地域の交流も大切にし、生きがいある支援に努めている。	法人の明日葉3原則と事業所の地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を見やすい場所に掲示するとともに、代表や管理者から必要に応じて指導を受け共有や実践の確認を行っている。職員は利用者の出来ることに視点を置いて関わることで「笑顔と平安のある生活」の支援に繋げている。また家族や地域とのかかわりを普段から大切にし理念の実践に向け努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に展示物を出品し、見に行き交流したり、夏祭りを行ったり、幼稚園や小学校と交流を行っている。また、法人の広報誌明日葉だよりを通じて活動報告している。	町内会に加入し地域行事等の情報を得ているとともに、そのかかわりを大切にしている。地域の文化祭に参加したり、事業所の夏祭りへの招待や防災訓練への協力等交流が盛んである。近隣の幼稚園とは、法人の畑と一緒に収穫作業を行ったり、運動会に招いていただいたり交流が深まっている。地域のボランティアも頻りに訪れ地域とのつながりが盛んである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症について話す機会を設けている。法人の広報誌明日葉だよりで様々な情報を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市・地域包括支援センター・家族へ報告し、話し合いを行っている。ADL低下後の心配事等について説明したり、意見交換している。	酒田市・地域包括支援センター・自治会長・家族により年6回開催されている。会議では事業所の状況や活動、取組等が報告され、委員からは防災や事業所での生活等意見が出されている。毎回事業所からは認知症についての様々な取組みや活動についての情報提供が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>集団指導や研修会、運営推進会議への参加、助言を頂いている。疑問点があればその都度、報告、相談をしている。</p>	<p>運営推進会議や酒田市介護サービス連絡協議会等で意見交換が行われている。利用者等個別の問題等は、窓口へ問合せ等繰り返しながら問題解決に向け努力している。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について施設内研修会を行い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。常に入居者の状態を見守り、確認しながら今後も身体拘束ゼロでいきたい。</p>	<p>法人の研修会やマニュアルをとおして職員に周知している。職員は事故対策委員会や身体拘束委員会による事故分析や対策により安全確保への意識が高く、禁止の対象となる具体的な行為等正しく理解している。利用者の危険に繋がる行為には、安易に否定せず、見守りを大切にし寄り添いながら関わることで不適切な対応の無いよう工夫している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修会で学んだことを実践し、虐待を見逃さないよう、職員が同じ意識を持ってサービスを行っている。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内研修会で勉強している。また、運営推進会議等において家族へ情報提供している。</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者、家族の方に理解して頂くよう施設見学や十分な説明を心掛けている。いつでも、家族の不安や疑問が生じた際は、その都度説明を行うようにしている。</p>	/		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者お一人お一人に声をかけたり、話し合ったりする等、話しやすい環境を作っている。ご家族様には、来設時、会話の中で問題点や相談事はないか聞き、サービスに反映させている。毎月、書面にて生活状況の報告をしている。	理念に掲げるとおり入居者、家族とコミュニケーションを大切にすることで意見等表しやすい関係を大切にしている。運営推進会議には家族全員に参加を呼びかけている。玄関ホールでは家族とゆっくり話せるよう談話室的なスペースが確保されている。法人による家族等へのアンケートも実施されサービスの向上に活かしている。介護相談員が利用者による外部者へ意見を表す良い機会となっている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の活動計画などは、月担当を決め、職員同士が相談し合い活動をしている。毎月のケア会議でも、全員が意見を出せるよう心掛けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が目標を設定し、上半期下半期で自己評価をしてもらい、向上心を持って働けるよう努めている。職員評価も行っており、良いところ・悪いところを確認し、次に活かせるようにしている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修会に参加するように働きかけたり、事例発表を行っている。また、介護福祉士やケアマネージャーの試験対策も行っている。外部研修には希望者を募ったりし参加してもらっている。	職員が年二回自己評価を行い目標を作り、管理者等が指導することで力量の把握や働きながらトレーニングする機会となってる。法人による研修計画が作られ、研修委員会とスキルアップ研修で学ぶ機会は十分に確保されている。また県や団体が主催する外部研修へも希望者や適任者を派遣しサービスの向上に活かしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会などに参加し、他事業者との意見交換や交換実習を通じ、他施設の良い所を学んでいる。また、連絡協議会の幹事施設となっており、企画した勉強会における情報を職員へ伝達している。	グループホーム連絡協議会や酒田市介護サービス連絡協議会等を活用し意見交換や交換実習等連携しサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接し、本人と家族から話しを伺い、安心して生活出来るように対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行い、話を良く聞くよう心掛けている。本人が安心して過ごせるよう家族と相談し、信頼関係を築くよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族と相談し、必要とするサービスの提供に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が主体となって生活できるようサポートすることで、家事など自ら行えるようにしている。また、職員と一緒に رفتったりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切に、協力し合い入居者を支えるよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊・外出は自由に行き、関係が途切れないよう支援している。面会についても自由に行き、頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え、その都度、部屋や席を変え孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の流れなどを説明し、スムーズに移行出来るようにしている。退去後も相談に応じたり、様子を伺ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望や意向を汲み取り、困難な場合は家族に聞いたり本人の立場に立って検討するようにしている。	センター方式アセスメントを一部活用しながら、わかること・できることについて、アセスメント、モニタリングを繰り返し行い、情報を共有し、利用者との会話やかかわりの中での表情や仕草から、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や趣味などアセスメントをとって把握に努めている。また、家族、ケアマネ、地域包括から情報収集し把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のやる気に合わせて、無理に頼まず、なるべく気持ち良く継続して行えるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴、既往歴などの情報を詳しく聞き取り、ケアマネはじめ医療関係者、本人、及び家族と相談して、本人の状態に合わせて介護計画を作成している。また、ケア会議での意見を介護計画に反映させている。	毎月の処遇会議の中で職員の気づきを共有しながら、3ヶ月ごとモニタリング、6か月目には再アセスメントを行い、担当学会議とおして職員や家族の意見を踏まえ計画の見直しを行っている。わかること・できることについて、アセスメント、モニタリングを繰り返し、利用者それぞれの個別ケアが生かされる計画の作成に努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、水分、食事の状況について記録し、介護計画に活かしている。また、日々の変化、気づいたことなどを申し送り連絡ノートを使って情報共有を図り、問題点や改善策などを話し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園や小学校と交流を図ったり、地域の文化祭に出展したのを見に行き、地域の方々と交流したりしている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医を把握し、受診の支援を行っている。また、法人の管理医と協力体制を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。	法人の診療所からは毎週往診があり、専門外のかかりつけ医は家族と事業所で通院支援が行われ、安心して医療が受けられる環境が整っている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月、体調の悪い方の情報を同法人の診療所に報告し相談している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、病院・家人と連絡を取り、状態の把握に努め、退院後もスムーズに生活出来るよう連携を図っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態に合わせて、本人、家族の意思の把握に努めている。事業所で出来ることを説明し、場合によっては法人内の老人保健施設について説明、紹介している。	早い段階から事業所での出来ることや出来ないこと、方針等が利用者、家族等へ説明されている。目標達成計画に従い、状況の変化に応じ繰り返し説明の機会を作り方針の共有に活かしている。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や研修会を行い、緊急時に適切な対応が出来るよう努めている。主治医や法人の医師、看護師に報告し、対応できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、消防署、自治会、近隣企業の協力を頂いている。夜間、地震、津波を想定し、隣接する同法人の老人保健施設へ避難する訓練も行っている。	目標達成計画に従い夜間を想定した避難訓練を実施している。年2回避難訓練を実施、地震や水害、火災等対応している。近隣の住民の協力も頂いている。防災機器や備蓄も定期的に点検されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修会やケア会議を行い、人格やプライバシーを損ねないように努めている。マニュアルも整備し、介助も気を付けて行っている。	倫理や接遇、プライバシーに関する研修等が法人により行われ、職員への周知が行われている。職員は利用者一人ひとりに合わせた配慮を、職員間で共有し注意し合いながら不適切な対応の無いよう努力している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう声掛けし、意思の確認をしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かい日課はなく、本人の意向を確認しながら、その人らしく過ごせるようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者と相談し、その日に着たい服を選んで頂いている。行きつけの美容院にく等の支援をしている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備など出来るところは入居者と行っている。季節に合わせて行事食を提供しており、干し柿作りやクリスマスケーキ作りなど楽しみながら一緒に行っている。	主菜は法人から調理されたものが提供されているが、利用者の生活感を考慮し副菜、汁、ごはんは事業所で利用者に関わって頂きながら調理している。職員と会話を楽しみながら家庭的な食事の光景があった。下膳や食器拭きなども利用者がなごやかに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の協力により、栄養バランスよく提供している。また、食事の摂取量と水分量を記録し、状態の把握に努めている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレで排泄するよう声掛けを行い、自立支援を行っている。	排泄パターンを把握しながら、適時の声掛け誘導によりトイレでの排泄の支援を行っている。おむつを使用している人も定時にトイレ誘導を行いトイレでの排泄支援を行っている。介護計画に位置付け評価を加えながら排泄の自立に向け支援している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として、食事は野菜を多く取り入れ、毎日体操やゲームなどを行い、排便を促す取り組みをしている。また、医師に相談しながら対応している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回行っているが、本人の希望があれば相談の上週2回以上行っている。また、季節に応じてかわり風呂なども行っている。	現在利用される方はいないが、身体状況に応じて機械浴の設備もあり、安心して入浴できる環境が整っている。入浴を好まない方にも声掛けや誘導を工夫して清潔が保たれるよう努力している。季節のかわり湯なども取り入れ入浴が楽しみなものになるよう工夫も行われている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を伺い、休みたい時にベッドで休んでもらったり、夜は寝つけるまで職員が対応したり、不穏にならないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為にチェックリストを用いて職員2人でダブルチェックを行っている。また、薬の副作用などを把握し、症状の変化にも気を付けている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や楽しい事を把握し、自主性を尊重しながら活動してもらっている。入居者の状態に合わせて役割分担をお願いしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の計画を立てるとともに、本人、家族の希望に応じて、自宅へ外出したりして、気分転換を図っている。天気の良い日は、散歩やドライブに出掛け楽しんでいる。	今年度は特に外出の機会を多く持てるよう様々な行事、ドライブが企画されている。行事だけでなく、その日の天候を見ながらドライブが実施されたり、コンサート、催しもの等へ出かけている。利用者に応じて散歩等も大切にされ戸外に出かける機会を作っている。家族の協力を得ながら墓参りや帰省など支援している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に合わせて管理してもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みを許可しており、居室内で自由に使ってもらっている。手紙のやり取りも自由に行っており、場合によっては職員が援助している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音を調整したり、不快に感じないように注意している。ホールに飾り付けや、写真などを掲示し、季節感を感じられるようにしている。	居間食堂は広く清掃も行き届き開放的な空間である。温度湿度も管理され、季節感を大切に飾りつけや思い出の写真、利用者の作品等が飾り付けられている。玄関ホールには談話室のようなスペースがあり、気の合った同士また家族との関われる場所がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で友達と話したり、ホールで気の合う人と交流を図ったり、ソファで一人でゆったりできるような環境を整えている。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを自由に持ち込んでもらい、ベッドの位置も自由に決めてもらっている。畳を希望する方にも対応している。	居室も広く、使い慣れたものなどの持ち込みも見られ、利用者それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫されている。ベッドでは転倒の危険がある利用者には畳を敷いて対応している部屋もあった。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかること・できることについて、アセスメント、モニタリングを行い、情報を共有し自立支援に努めている。		